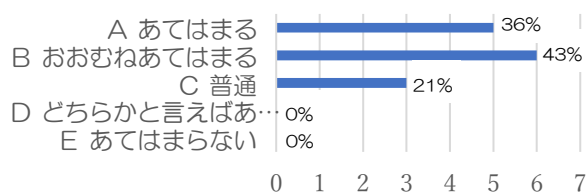


## 令和5年度 学校評価アンケート結果（対象：保護者）

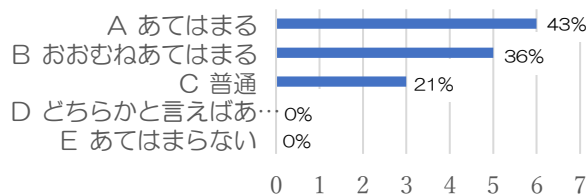
14件のご回答をいただきました。（回答率70%）

### 〈学校目標実現に向けての取り組み〉

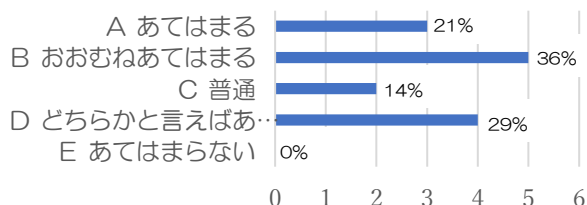
問1 学校は、いろいろな人と関われる人間関係作りや、コミュニケーション力の向上に努めていますか。（育む友情）



問2 学校は、日常的な健康管理、体力の維持・向上、障がいの自己理解のための指導に努めていますか（元気なからだ）

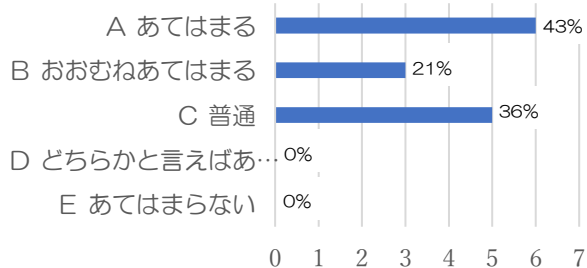


問3 学校は、視覚障がい教育の基本をふまえ、一人ひとりにあった適切な教育課程（時間割など）を仕組み、達成感と意欲がもてる授業づくりがなされていますか。（確かな学び）

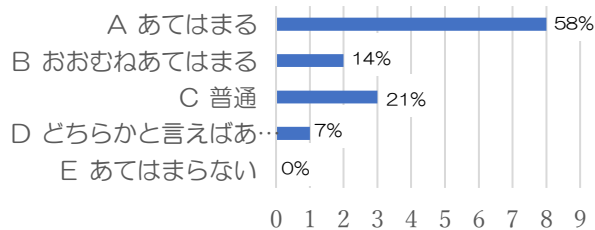


### 〈家庭との連携の取り組み〉

問4 学校は、保護者の思いや願いを聞く機会を設けていますか。

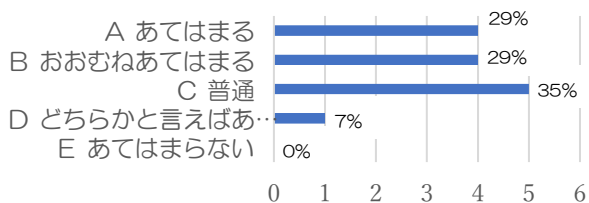


問5 学校は、児童・生徒や保護者の願いを大切にしながら個別の支援をしていますか。

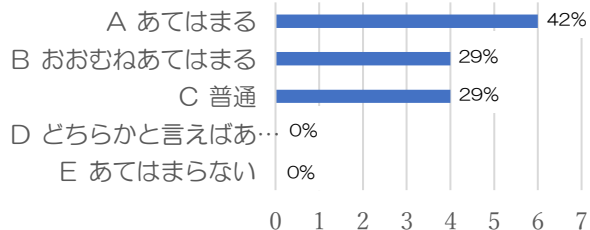


## 〈教育活動の取り組み〉

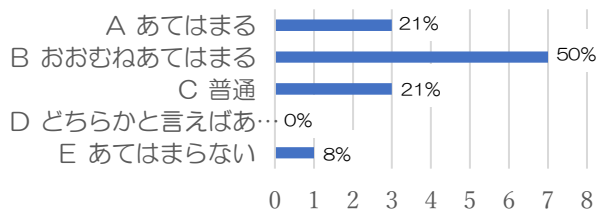
問6 学校は、幼児児童生徒の人權を尊重し、幼児児童生徒の相談に適切に応じ、解決や理解、支援に努めていますか。



問7 学校は、安心して安全な学校生活がおくれるように、安全で快適な配慮をしていますか。



問8 新型コロナウイルスに伴う対応は十分でしたか。



## 〈学校からの考察〉

- 5段階評価でAとBの肯定的な割合がどの項目でも高く、全体としては高評価をいただきました。
- 令和5年5月から、新型コロナウイルスの扱いが5類となりましたが、本校では集団での活動を再開したり児童生徒のみなさんのマスク着用を個人の判断に任せたりと、コロナ禍以前に戻す方向に進めながらも、様々な状態の児童生徒のみなさんの安全に配慮し、慎重な対応を取ってまいりました。そんな中でも、本年度は各部での校外学習、外部での実習、地域での奉仕活動などを行ってきました。時間的な制約もあり、コロナ禍においてできなかったこと全ての補填は難しい状況です。優先順位をつけ、本人、ご家庭と相談しながら、できる限り進めていきたいと思っております。
- ICTの活用については、発達段階や学習内容、本人の使いやすさなども考慮しながら、PCやタブレットでの入力、オンライン学習システムやUDブラウザの活用などを進めています。上手に活用すれば視覚的な困難を緩和するうえでも有効なものなので、情報リテラシーの学習と合わせて、一層の活用を進めていきます。
- ICT機器の活用とは別に、点字の学習は大事にしていきたいと考えています。音声として流れてしまうものではなく、その場において触覚で繰り返し読める点字は、視覚に障害のある人たちにとって墨字と同じように大事な情報手段であり、思考ツールだと考えております。社会の中でも日常的に点字が見られるように、啓発も進めていきたいと思っております。

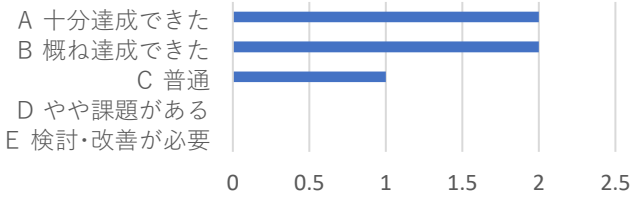
- 校地内への立ち入りや駐車場の車の通り抜けなどには苦慮しているところですが、具体的なご提案をいただき、ありがとうございます。看板を大きくしてみました。
- 信大生への啓発活動については、PTA の点字ブロック啓発活動の際にもお一人からご提案があり、来年度への提案とさせていただきたいと思います。ご協力をお願いします。PTA 会費につきましても、会員の減少傾向も鑑みながら役員の方々と検討していきたいと考えています。
- 職場見学や実習については、相手先の都合もあり、なかなか思うように進められないこともあったかと思われます。ご家庭との連携を密にしながら進めてまいります。
- 今年度はクロスカントリー体験やボッチャの体験などを行いました。そういった体験からパラスポーツに興味を持つ児童生徒のみなさんが増えることを期待しております。今年度は行いませんでしたが、ブラインドサッカーやゴールボールの体験も児童生徒の実態を考慮して検討してまいります。

# 令和5年度 寄宿舍保護者アンケート結果

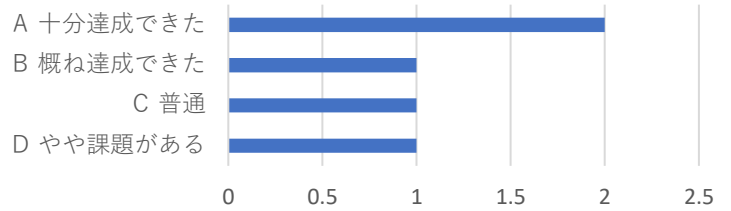
松本盲学校 寄宿舍

5名の方にお答えいただきました。(回答率 56%)

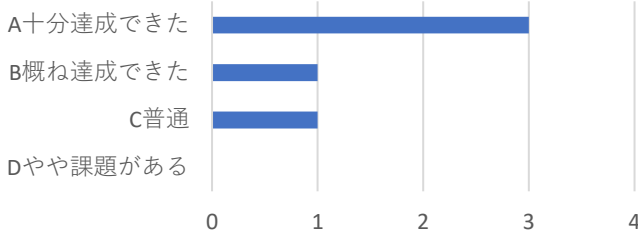
問1 <規則正しい日常生活のリズムと余暇利用のバランスを考えた活動の展開>寄宿舍生活を送ることは、生活リズムを整えることに繋がっていると思いますか。



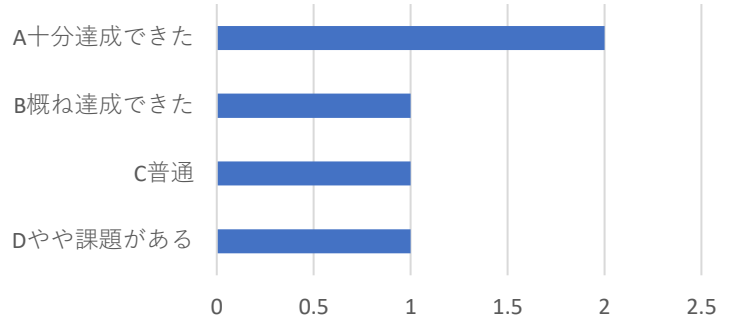
問2 <将来必要とされる生活を考え一人一人の力に応じて取り組める生活習慣の場の設定>寄宿舍の活動(日常生活、余暇の活動等)は、将来を見通した時に、適切だと思いますか。



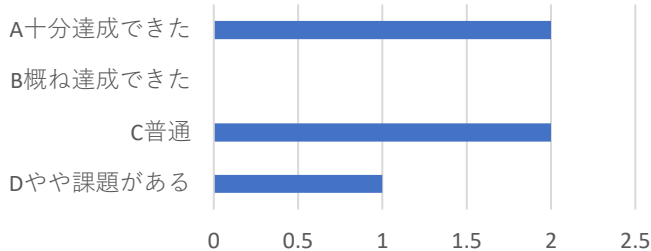
問3 <異性・異年齢で作る集団の中で仲間と作り上げる活動を通じた生活の充実と人間関係作り>寄宿舍の生活は、年齢の異なる舎生や職員とのかかわりを通して人間関係が育ってきていると思いますか。



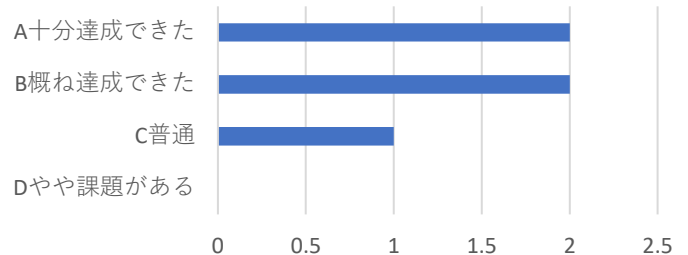
問4 <健康で安全な暮らしが保証され、心身のリフレッシュできる場の設定>寄宿舍内の施設は、安全で生活しやすい環境になっていると思いますか。



問5 <個別の指導計画について>「個別の指導計画」は、舎生や保護者の願いが反映され、日々の寄宿舍生活に活かされていると思いますか。



問6 <盲学校の寄宿舍としての専門性>寄宿舍は視覚障がい児・生が生活する場として、生活しやすい環境が整備されていると思いますか。



### <寄宿舍からの考察>

- 日々の日課の中で生活を送ることが、舎生一人ひとりの生活リズムを整えることにつながっていると思われます。
- 支援については、学舎保護者で確認しながら進められるように更に意識していきたいと思ひます。
- コロナでの活動宣言も緩和されてきているので、舎内（棟内、舎全体）での活動を活性化し、人間関係の育成を目指していきたいと思ひます。
- 各部屋の照明の修繕、カーテンの交換など環境改善をお願いし、実現していただきました。これからは安全で生活しやすい環境づくりに努めていきたいと思ひます。
- 個別の指導計画については作成するだけでなく活用するものだということ職員一同改めて確認したいと思ひます。作成についても引き続き年三回の保護者とのやり取りをさせていただきながら作成し、作成した指導計画を支援にいかしていきたいと思ひます。
- 舎生の見え方に合わせて舎内の環境整備に努めていきたいと思ひます。
- 学校で行われる研修、舎内独自の研修、個人個人が参加している研修などに取り組んでいますが、更に研鑽を積みより適切な支援が行えるように努力してまいります。